

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	天神 裕子 【比較社会文化学専攻 平成23年度生】	<p>本論文は、日本の植民地時代に大陸に居住し、光復後台湾へ戻った台湾籍、いわゆる「半山」作家である林海音の作品における主婦像の分析を通じ、1920年代から1950年代にかけて中国大陸と台湾に跨り形成・発信された、一知識人女性の家庭観の意味を考察するものである。林海音が最も精力的に創作活動を行った1950年代～60年代の作品には一貫して女性・家庭の題材が用いられ、林自身の分身のように“自己肯定感の強い近代主婦”像が度々出現する。林海音と同様に、国民党の撤退前後、一群の女性知識人が台湾へ移住し、国民党政府の主導する台湾文壇で作家としてデビューした。“遷台女性作家”と呼ばれる彼女たちは、大陸時代に五四文化運動の洗礼を受け、日本語／台湾語の使用が禁止された当時の文壇において、家庭・女性に関する言説の産出者となった。大陸から台湾という「異郷」への漂泊が、知識人女性一多くは主婦で母親でもあった一の描く主婦像に、どのような影響をもたらしたのか。「半山」の林海音はそれらと重なり合いつつ、より複雑な主婦像を描き出した。</p> <p>まず遷台女性作家の多くが作品発表の場とした『中央日報』『婦女与家庭』欄における主婦言説を分析し、核家族において内助の功を果たしつつ一定の経済力を持ち、主体的に家庭を営む主婦像は、中国の近代化により誕生した“近代家族の良妻賢母”像と重なり、同時に、国民党政府の主導による“反共抗ソ”政策にも合致する有能で幸福な“自由中国”の主婦像を析出している。</p> <p>さらに鍾梅音ら外省人遷台女性作家にとって、台湾が“小家庭”を築く新天地として描かれているのに対し、林海音は近代家族の受容という点では共通するが、祖籍台湾への移動は故郷への帰還の意味合いも持ち、林海音の台湾意識がより複雑で重層的なものであり、積極的で前向きで、より充実した自己をめざす主婦像が形成された。それは戦後台湾の政治・社会の要請に適合したものであったが、時代のなかで漂泊した家庭を介して形成されたものであった点で、遷台女性作家群の中でも特殊な位置を占めると結論づけている。</p> <p>本論文の審査委員会は、2015年7月14日、12月16日、2016年2月8日の3回行われた。研究の意義は審査員一同認めたものの、構成上、「婦女与家庭」欄の羅列的な考察にとどまっている印象を与える点、日本における良妻賢母言説への参照が不足している、等の問題点が指摘され、二度にわたり修正を行った。その結果、林海音の主婦言説の形成を他の遷台作家との比較により明らかにする統一感のある論文となり、2月8日の最終審査に先立って行われた公開発表においても、写真をふんだんに用いるなどして論文の内容をわかりやすく発表し、聴衆からの質問にも適切に回答した。最終試験にも合格し、審査委員会として、学位論文にふさわしいとの結論に達した。学位名称は、博士（人文科学）、Ph. D. in Chinese Literature とする。</p>
論文題目	“半山”作家林海音の主婦像 —台湾と北京・日本を漂泊した家庭	
審査委員	(主査) 教授 宮尾 正樹	
	教授 和田 英信	
	教授 岸本 美緒	
	教授 伊藤 美重子	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 (㊟ ・ 否)</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	